

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重点課題

地域住民に対する地区社協の認識度の向上

・事業名

地区社協の啓発活動事業

・地域の課題（背景）

- ・広報紙の配布はされているが内容まで読まれていないことや高齢者は読むが、家族全員・若い世代はほとんど見ない
- ・広報紙の情報が、社協の活動報告という印象になり、住民が自分事として感じにくい。
- ・紙媒体だけでは届きにくい層(共働き世帯、若い世代)の人は、紙を読まないことやSNS中心のため、全戸配布していても情報が届かない

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）

①地区社協の広報活動

- ・自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配付を依頼する。
- ・地区社協の活動が住民に伝わるよう、読まれる内容の工夫、事業参加につながる紙面づくりを考える。
- ・大江地区社協の事業などを広く知ってもらうため、地区の公共施設、商店、作業所、福祉施設、交番等へも広報紙を配付する。

②イベントや4部会の事業などの広報活動

- ・「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。
- ・イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。
- ・各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。
- ・防災に関する最新情報などを掲載する。
- ・幅広い世代への情報発信の手段として、SNS（Instagram、Facebook、LINEなど）を活用する。

自助(自分でできること)

- ・地域住民の参加を積極的に呼び掛ける。
- ・広報紙作成などの体制づくりを強化する。（SNSなどの活用を含む）

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・一層充実した事業運営のために、活動助成金の増額を要望する。

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題

防災・減災に対する意識の高揚

・事業名

防災意識の向上事業

・地域の課題（背景）

- ・地域住民の皆さんの防災・減災に対する関心の高さは年々大きくなってきている。
- ・防災に関わる「講習会」などを継続して開催することは重要である。
- ・何をすれば良いか、何に備えれば良いかなど、具体的な防災行動に迷う住民は多い。
- ・大江地区では自主防災組織の編成が少ないため、災害対策として重要性を啓発していく。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）

①講習会などの開催

- ・災害は身近にあるものだとし、防災意識と知識を高めるために開催する。
- ・講習会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。
- ・消防団員の参加を得て実施する。
- ・昨年度実施できなかった、防災備品などを活用した訓練を行う。

②災害対策

- ・地区内における自主防災活動情報を共有する。
- ・避難所（大江体育館、海津市総合教育センター）の防災備蓄品を確認し、補充備品などを市に要望する。

③広報紙による防災関連の情報を共有する。

- ・防災意識と知識を高めるための最新情報を掲載する。
- ・講習会の内容を記事などで紹介する。

自助(自分でできること)

- ・避難場所など避難経路の確認
- ・地域住民に対する防災意識の高揚を更に図るために、各地域住民にまで広げた防災訓練または、講習会を実施する。
- ・備蓄品を確認し、備品などの充実を図るとともに、この備品を使つての実務訓練を行っていく。

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・地域住民に対する防災意識の高揚を図るため、積極的な働きかけをお願いする。
- ・避難所運営ゲーム（HUGゲーム）を防災講演会などでの実施をお願いする。
- ・備蓄品の充実を図るよう、継続して依頼していく。

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題

地域住民間における交流する機会の拡充

・事業名

三世代交流の促進事業

・地域の課題（背景）

- ・大江地区の福祉施設の施設利用者にも参加できるような企画を考える。
- ・地域ふれあい交流の促進のため、「まめでいりゃーす会・ひとり暮らし高齢者のつどい」を引き続き実施していく。
- ・地区内の子どもたちの減少が大きな課題である。
- ・海津小学校が開校し3年目となり大江地域への愛着が薄れつつある。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）

①大江地区運動会（秋）・さつまいも（秋）・餅つき三世代地域交流会（冬）

- ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、周知活動を行う。
- ・参加児童・生徒、保護者、地域住民と連携する。
- ・海津小学校、日新中学校との関わりを保ち、昨年度に引き続き、出来る行事を継続する。

②大江地区のサロンの計画

- ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回、70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい事業」を実施する。
- ・参加者全員が、互いにふれ合える環境づくりをする。

自助(自分でできること)

- ・イベントが行われる際には、16自治会・地域住民に参加の呼びかけをする。

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・高齢者のつどい事業拡充のため、助成金の増額を要望する。

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重点課題

地域での見守り活動の積極化

・事業名

見守り活動の促進事業

・地域の課題（背景）

- ・子どもたちの登下校の見守り活動の継続の重要性を確認し、各バス停において乗降時及び、交差点の見守りについて検討を進め、より多くの地域ボランティアを募る必要がある。
- ・高齢化及び核家族化の進行によることなどから、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加などの対策は急務である。
- ・令和5年度において、生活支援要綱を策定し、「大江ん隊」組織がスタートした。今後、更に利用が増えてくるものと考えられ、そのための準備を進めていく。
- ・令和6年7月より始まった「大江んバス」の運行について、利用者の利用回数などのニーズに応じていく必要がある。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）

①子どもたちの見守り

- ・登下校の見守りを行うため、学校と協力し、バス停及び、交差点毎の当番表を作成する。
- ・増員を図るため、地区社協便りにて見守りボランティアを募集し、増員を図る。
- ・地域住民に対して、通学路周辺での子どもたちの見守り活動への協力を呼びかける。
- ・通学路の登下校時間帯での車両などの速度の規制について働きかける。

②生活支援推進会議

- ・自治会長、福祉推進委員、民生委員児童委員、運営委員による福祉懇談会の開催する。
- ・定期的に福祉懇談会を開催し、活動の具現化を協議する。

③くらしを支え合う活動・大江

- ・生活支援「大江ん隊」の啓発と普及を図るためのサポーターを募る。
- ・生活支援「大江ん隊」の充実を図るため、サポーターの集い、研修会を開催する。
- ・「大江んバス」の利用者を増やすための働きかけをする。

自助(自分でできること)

- ・積極的に見守り活動への参加。
- ・地域の助け合い・支え合い活動への参加。

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・小中高生が安心安全に登下校するために、運転者に対し、安全通行の指導と交通標識遵守の強化を求める。